

県域 絶滅危惧Ⅰ類



環境省レッドリスト(2018) 絶滅のおそれのある地域個体群(LP)

婚姻色を示すオス。全国的に生息数が激減しているが、詳しい理由は不明。北潟湖産 5月。

トゲウオ科 イトヨ属

【全長】8cm

## ニホニイトヨ

◇イトヨ日本海型 学名:*Gasterosteus nipponicus*

### 分布域

島根～青森県の日本海側と北海道・利根川水系以北に分布する。

### 生息域

普段沿岸部に生息し、産卵のため河川(淡水域)に遡上する。



背鰭の前方と腹部に鋭い棘を持つ。

従来はイトヨ日本海型や日本海系イトヨ、イトヨ降海型などと呼ばれていたが、2014年に新種記載され学名・和名が新たに決定した種。

背鰭の前方に3本・腹部に1対2本の棘があり、エラ蓋から尾鰭まで鱗板が連続して並ぶ。海の沿岸や潮だまりに生息し、2月頃から産卵のため河川(淡水域)に遡上する。食性は動物食性で浮遊動物・水生昆虫や小型の甲殻類などを食べる。産卵期は春(4～6月)でオスが泥砂底にくぼみを造り、植物片と体から分泌する粘液でトンネル状の巣を造り、メスを誘う。この時期のオスは背面側が青味を帯び、頭部～腹部が鮮やかに赤くなる婚姻色を示す。早急な保護が必要な種である。

在来種

回遊魚

※ 県内の生息地・生息数共に急速に激減。水質の悪化や護岸工事による生息環境・産卵場所等の破壊などが原因・要因と考えられるが、詳細は不明。県内で最も絶滅が危惧される淡水魚のひとつ。